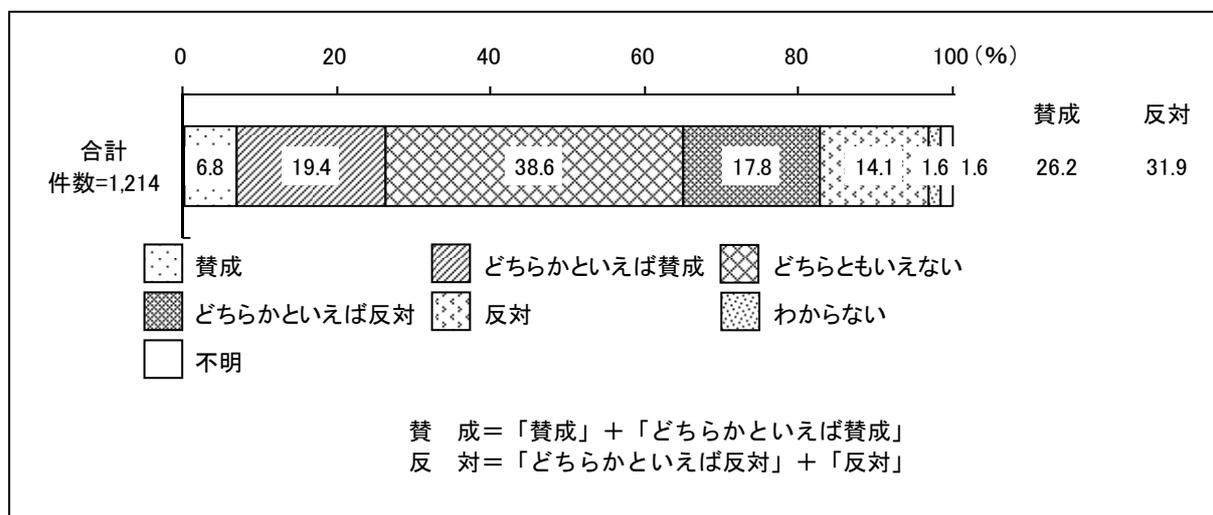


4 男女共同参画について

(1) 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について

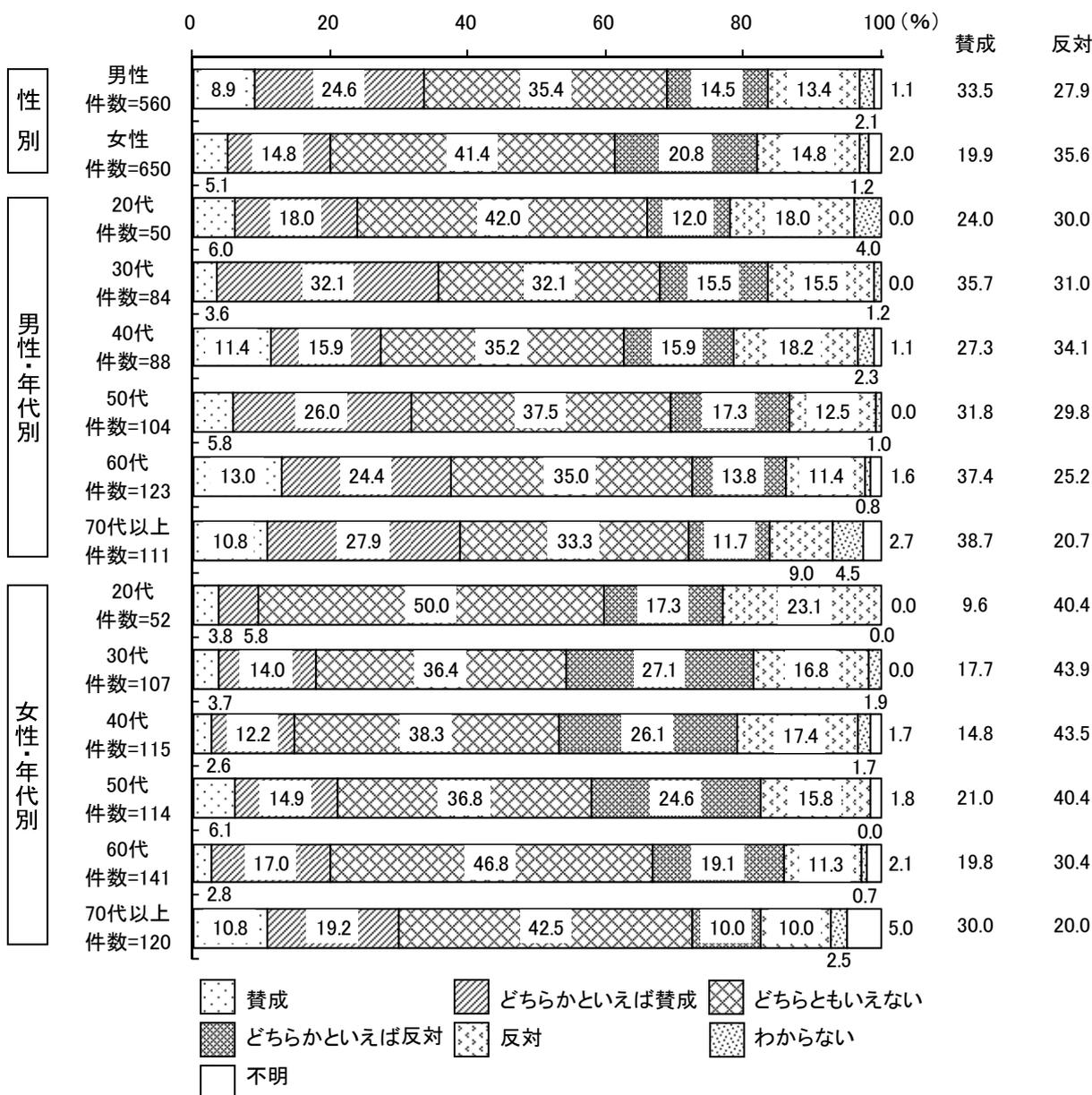
問 10 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどう思いますか。 【1つに○】

「男性は仕事、女性は家庭」に“反対”が31.9%



「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について聞いたところ、「賛成」(6.8%)と「どちらかといえば賛成」(19.4%)を合わせた“賛成”は26.2%、一方、「どちらかといえば反対」(17.8%)と「反対」(14.1%)を合わせた“反対”(=男女の役割を固定的に考えることに反対)は31.9%と“賛成”を上回っている。

属性別



性別

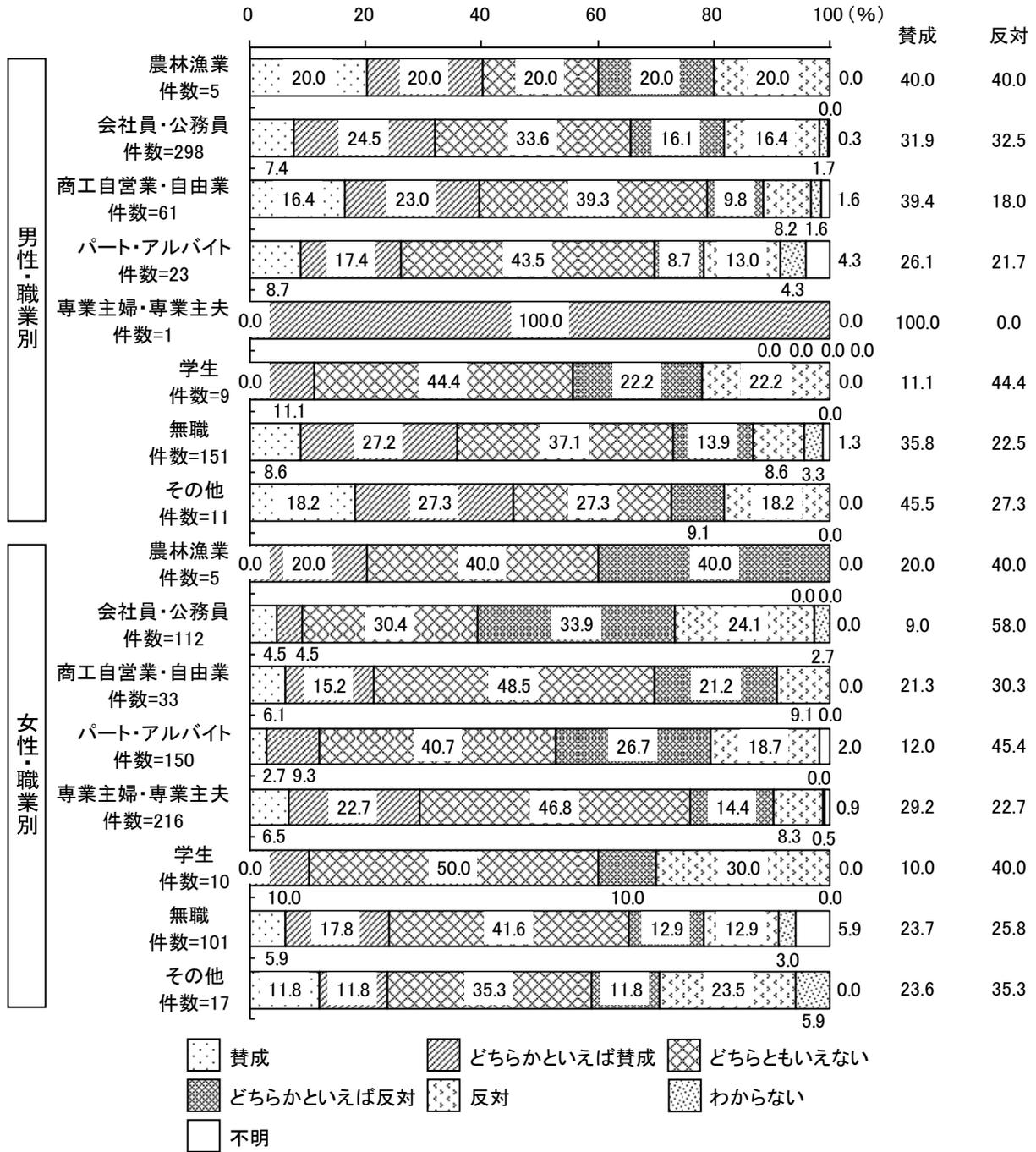
“賛成”は男性（33.5%）が女性（19.9%）を大きく上回っている。一方、「どちらともいえない」（男性：35.4%、女性：41.4%）及び“反対”（男性：27.9%、女性：35.6%）では女性が男性を上回っており、男女の意識に差が見られる。

性別・年代別

男性では、20代（30.0%）、30代（31.0%）、40代（34.1%）で“反対”が3割台と高く、50代以上（50代：29.8%、60代：25.2%、70代以上：20.7%）では年齢が上がるほど割合は低い傾向となっている。

女性では、20代（40.4%）、30代（43.9%）、40代（43.5%）、50代（40.4%）で“反対”が4割台と高く、同じ年代の男性の割合を大きく上回っている。

4 男女共同参画について



性別・職業別

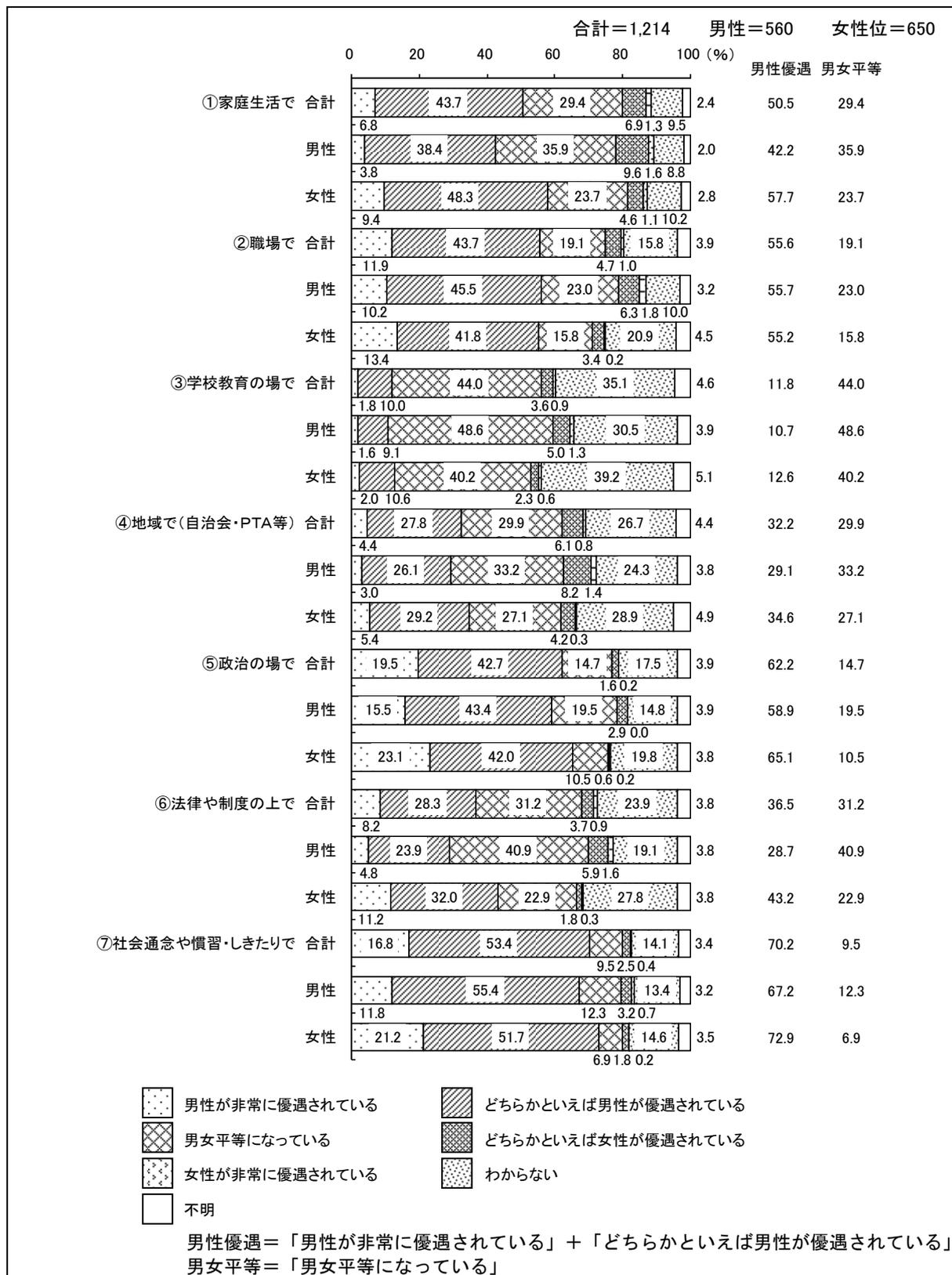
男性では、学生（44.4%）及び農林漁業（40.0%）で“反対”が多い一方で、商工自営業・自由業（18.0%）では2割未満と少ない。

女性では、会社員・公務員（58.0%）で“反対”が約6割と非常に多く、専業主婦・専業主夫を除く、すべての職業で反対が賛成を上回っている。

(2) 分野ごとの男女平等

問11 次のような分野で男女は平等になっていると思いますか。①～⑦の項目ごとに該当する番号を選んでください。 【各1つに○】

「社会通念や慣習・しきたりで」の分野では“男性優遇”が7割台



4 男女共同参画について

分野別の男女平等について聞いたところ、「学校教育の場で」を除くすべてで“男性優遇”が“男女平等”を上回っている。

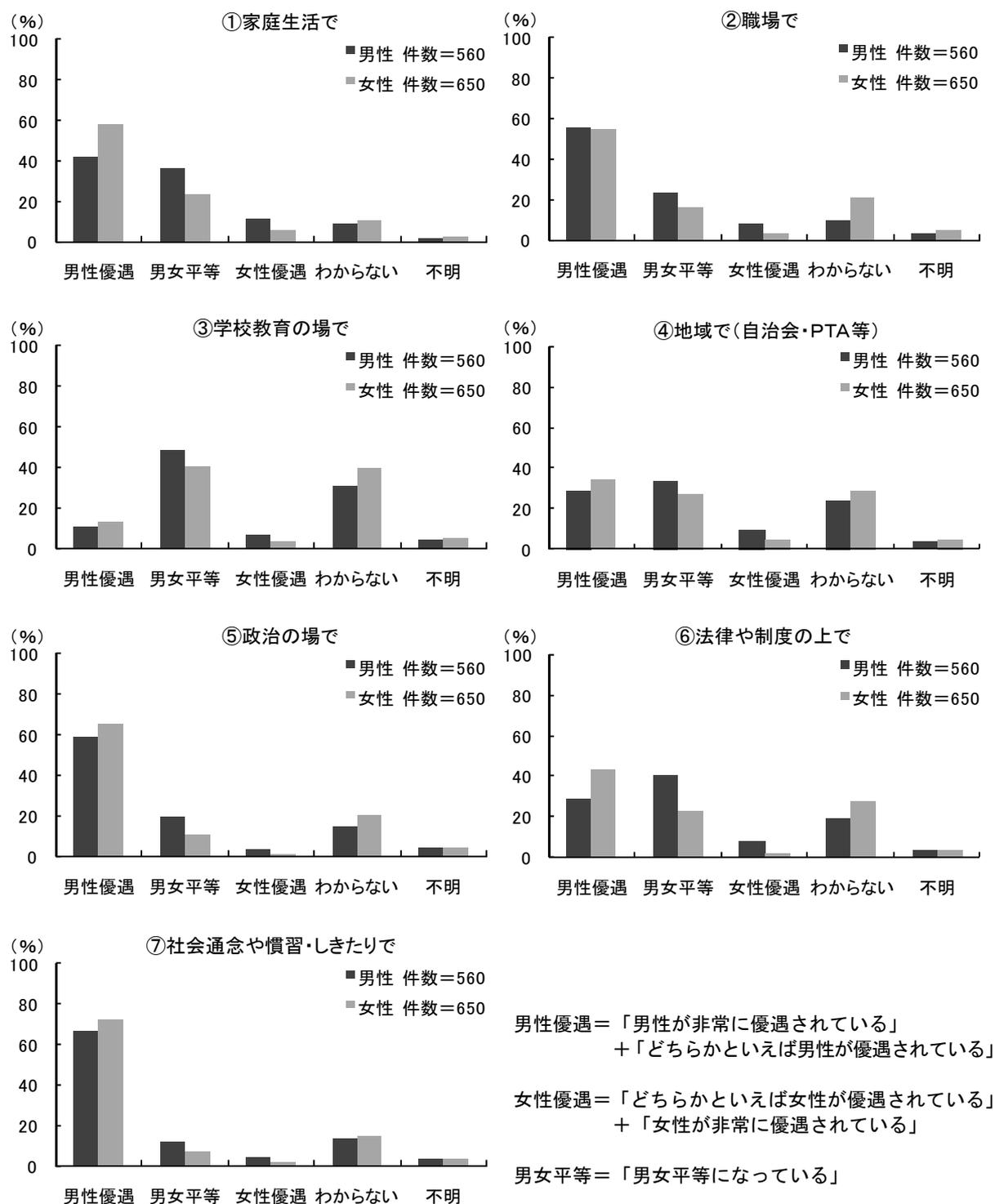
“男性優遇”は「社会通念や慣習・しきたりで」(70.2%)で7割台と最も高く、次いで「政治の場で」(62.2%)、「職場で」(55.6%)、「家庭生活で」(50.5%)と続き、これらの項目でいずれも5割以上となっている。

一方、「男女平等になっている」は「学校教育の場」(44.0%)で4割台、「法律や制度の上で」(31.2%)で3割台と高くなっている。

性別

“男性優遇”は、「家庭生活で」(男性：42.2%、女性：57.7%)及び「法律や制度の上で」(男性：28.7%、女性：43.2%)で男女の意識に大きな差が見られる。

①性別による各分野比較



「家庭生活で」、「職場で」、「政治の場で」及び「社会通念や慣習・しきたりで」では男女とも“男性優遇”が最も多くなっている。一方、「地域で(自治会・PTA等)」及び「法律や制度の上で」では、“男性優遇”には女性の方が多く回答し、“男女平等”には男性の方が多く回答している。また、「学校教育の場で」は男女とも“男女平等”への回答が最も多くなっている。

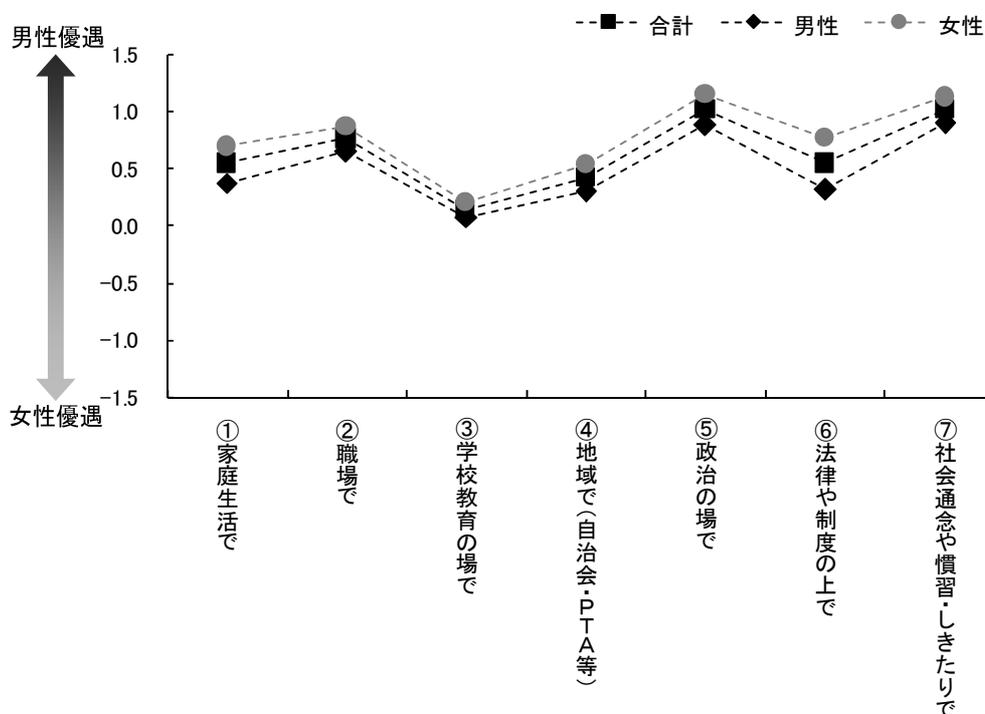
②各分野における男性優遇度

※男性優遇度の算出方法

各分野の男女平等について、右表に示した基準により算出した和を全回答数（「わからない」及び「不明」を除く）で除して算出した。

項目	点数
男性が非常に優遇されている	2点
どちらかといえば男性が優遇されている	1点
男女平等になっている	0点
どちらかといえば女性が優遇されている	-1点
女性が非常に優遇されている	-2点

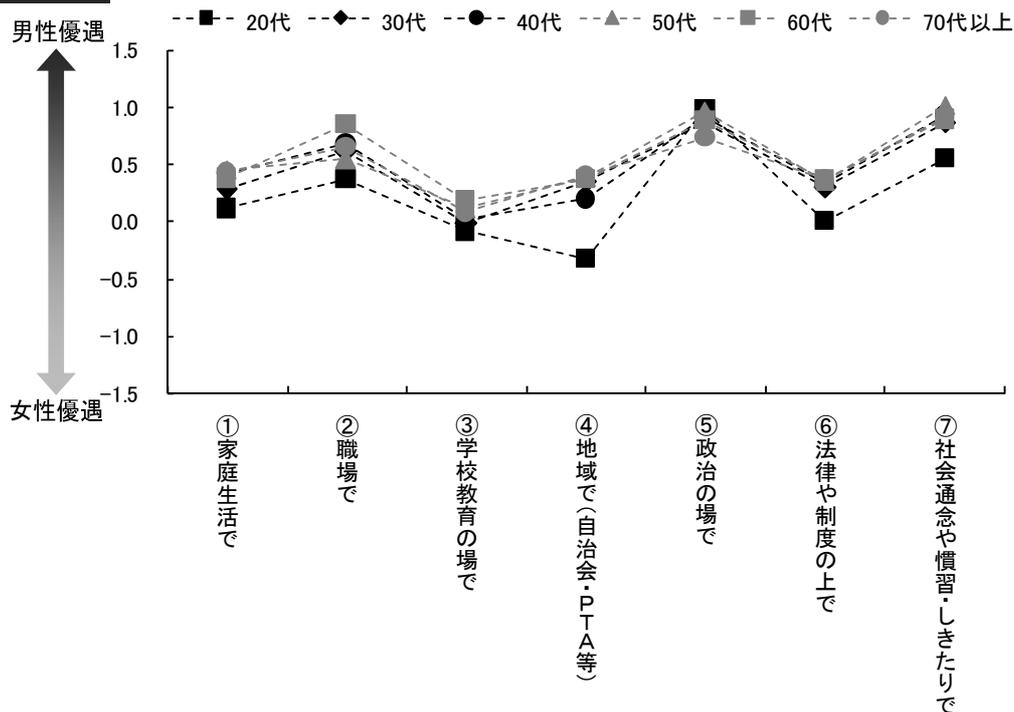
性別



いずれの分野でも“男性優遇”の意識が強く、特に「政治の場で」及び「社会通念や慣習・しきたり」でその傾向が顕著となっている。

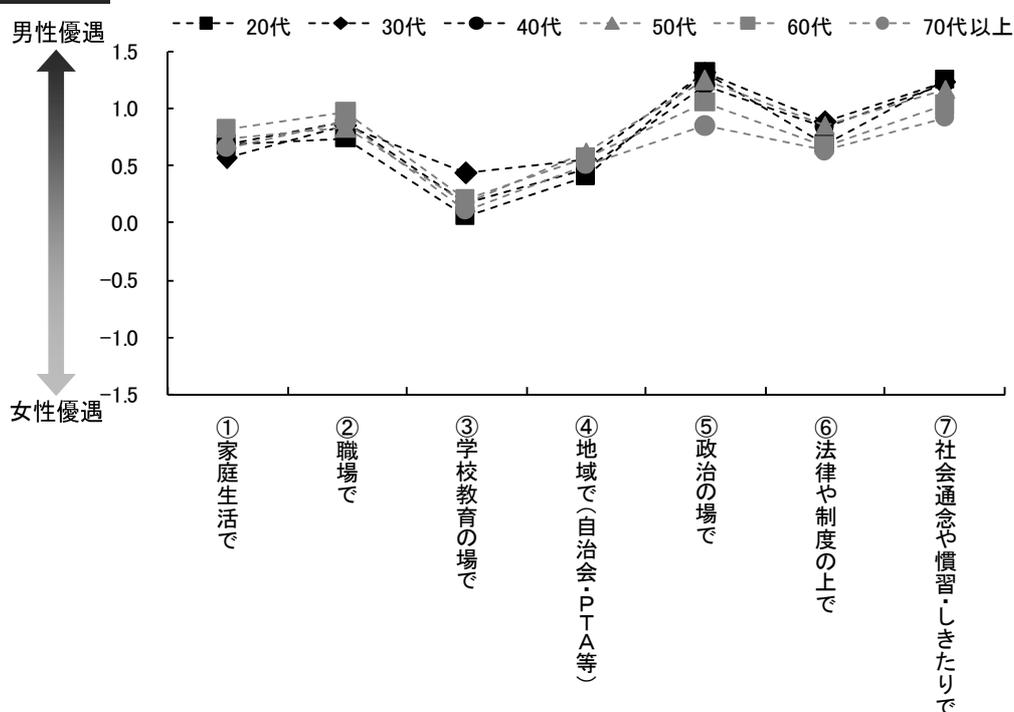
男女別でみると、「法律や制度の上で」で男女の意識に違いが見られる。一方、「学校教育の場で」では男女の意識に差はほとんど見られない。

男性・年代別



男性では、20代で“男性優遇”の意識が他の年代と比較して低く、特に「地域で（自治会・PTA等）」及び「法律や制度の上で」で差が大きい。また、「職場で」では全体として年代による差が大きい。

女性・年代別



女性では、「政治の場で」で年代による差が大きくなっている。「学校教育の場で」では、おおむね男女平等の意識が強いが、30代で“男性優遇”の意識が他の年代と比較して強い傾向となっている。

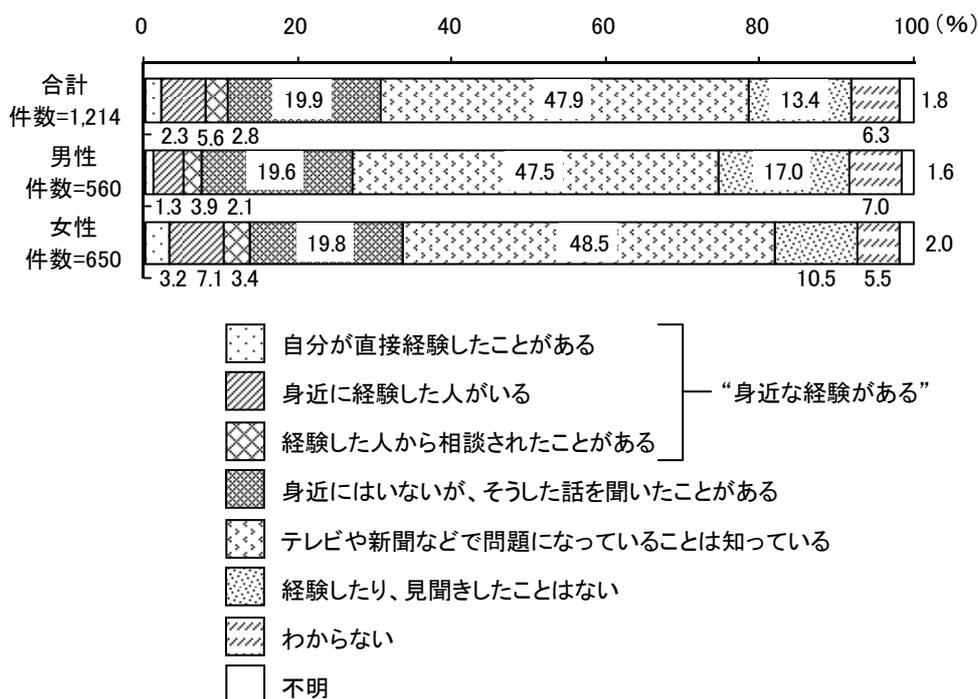
(3) DV、セクハラ、ストレス障害について

問12 次のようなことを過去1年間に経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。①～③の項目ごとに該当する番号を選んでください。【各1つに○】

①ドメスティック・バイオレンス

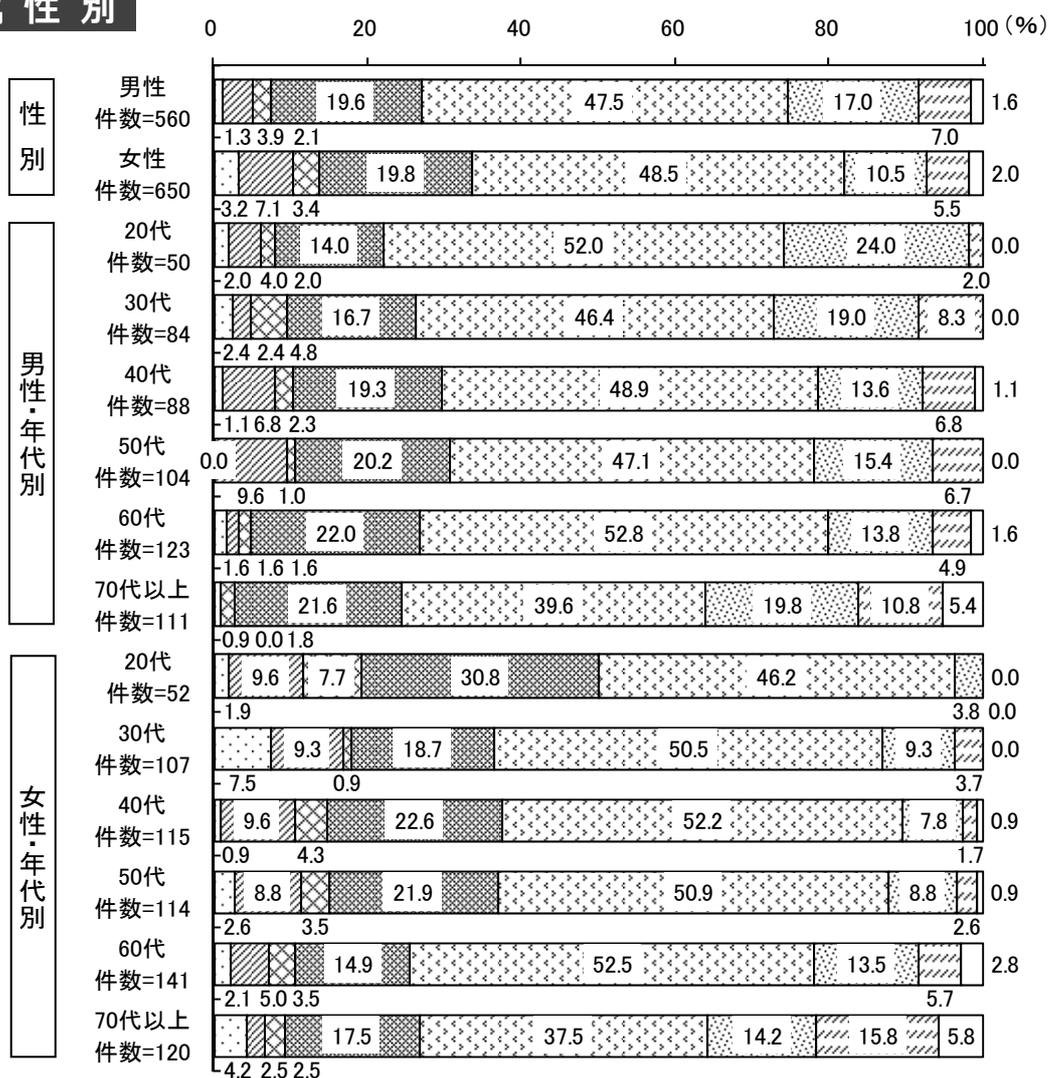
(DV：夫婦や交際相手など親しい間柄にある男女間の暴力)

“身近な経験がある” 女性は13.7%



ドメスティック・バイオレンスについて聞いたところ、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」(47.9%)が最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」(19.9%)、「身近に経験した人がある」(5.6%)、「経験した人から相談されたことがある」(2.8%)と続き、「自分が直接経験したことがある」は2.3%となっている。

属性別



- 自分が直接経験したことがある
 - 身近に経験した人がいる
 - 経験した人から相談されたことがある
 - 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
 - テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
 - 経験したり、見聞きしたことはない
 - わからない
 - 不明
- “身近な経験がある” (Patterns 1-4)
- “経験したり見聞きしたことがある” (Patterns 1-6)

性別

“身近な経験がある”項目への回答は男性に比べて女性で多くなっている。

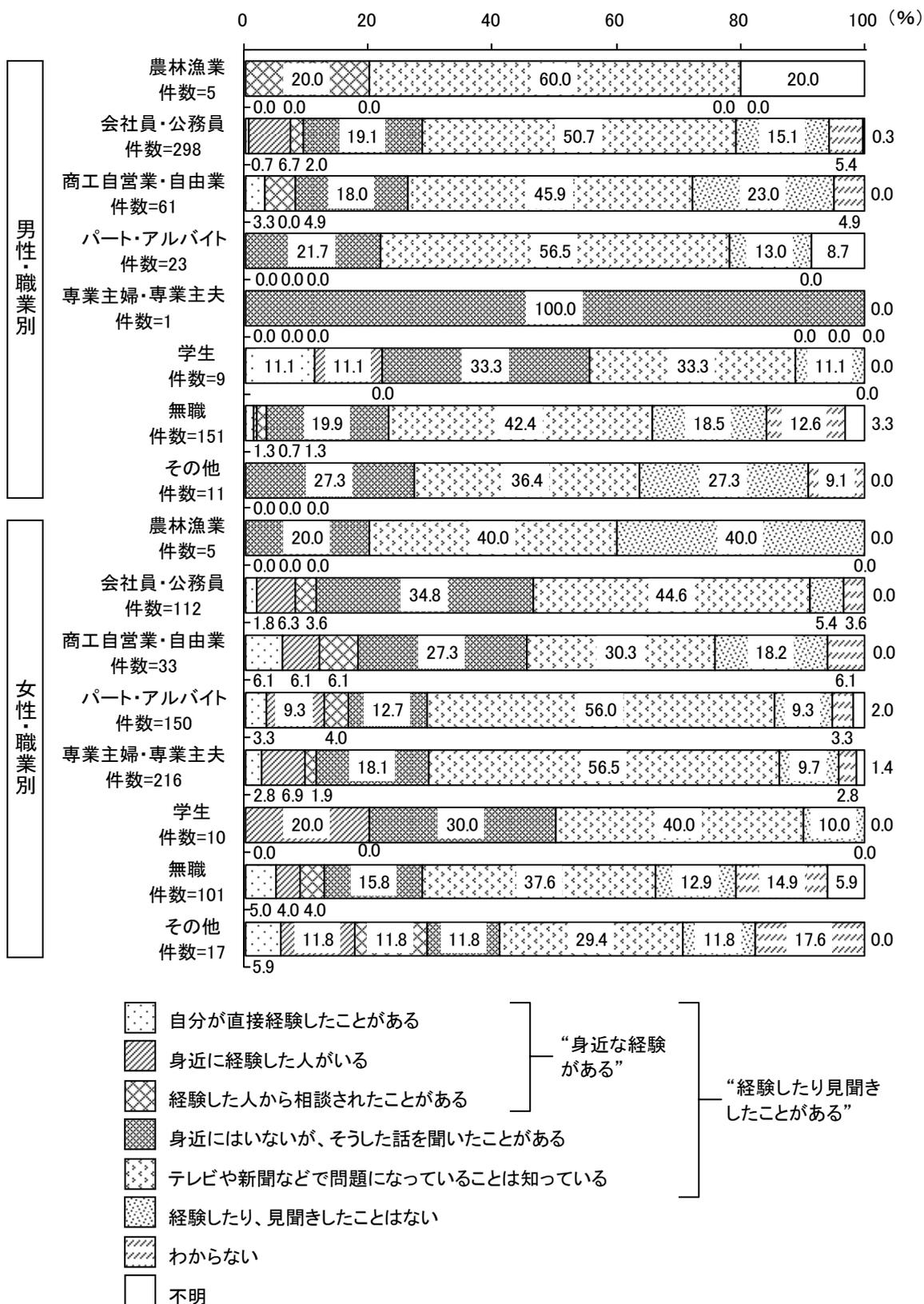
性別・年代別

他の年代に比べ、女性の30代で「自分が直接経験したことがある」の割合が高く、7.5%となっている。「身近に経験した人がいる」の割合は女性の20代～50代で9%前後とほぼ同じ割合となっている。

4 男女共同参画について

また、女性では、年代が下がるほど、“身近な経験がある”項目への回答が多い傾向となっている。

一方、男性では、“身近な経験がある”項目への回答は60代以上で少ないものの、年代による大差は見られないが、「身近に経験した人がいる」の割合に限ると、40代、50代で高くなっている。

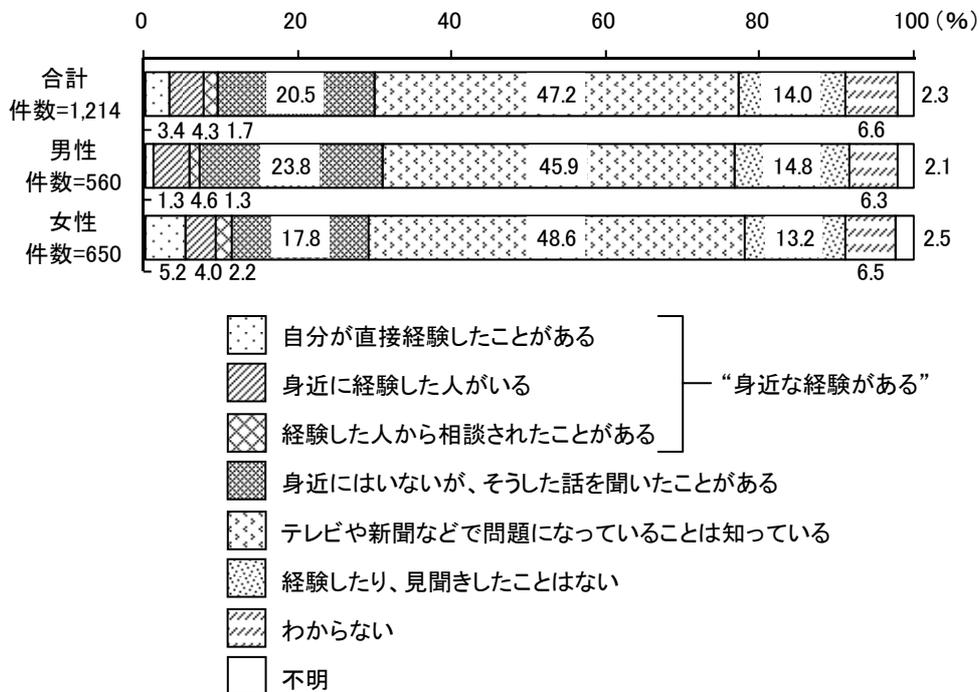


性別・職業別

学生では男女ともに“身近な経験がある”との回答が2割台となっている。次いで“身近な経験がある”が多いのは、商工自営業・自由業の女性、パート・アルバイトの女性の順である。

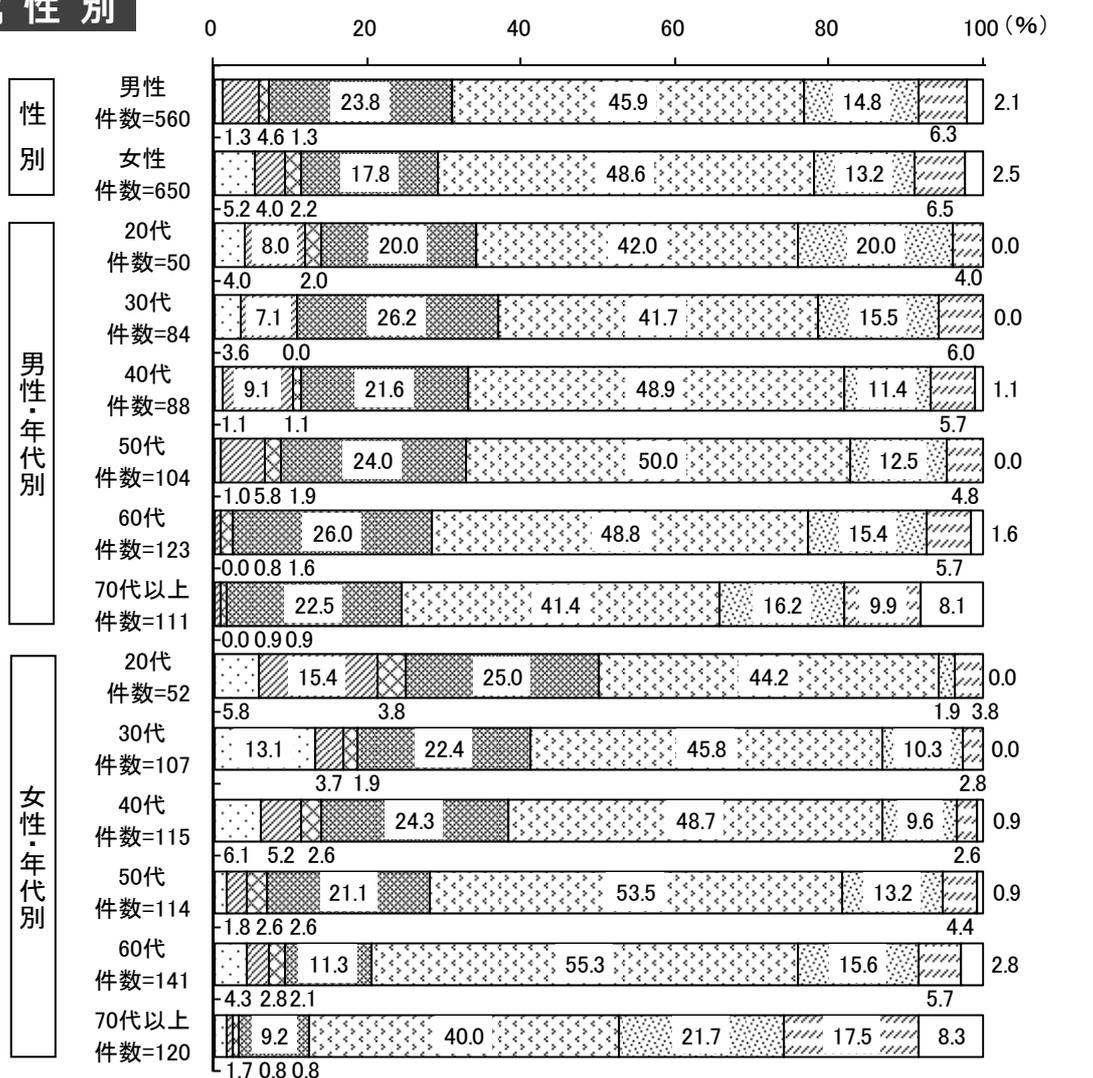
②セクシャル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）

“身近な経験がある” 女性は 11.4%



セクシュアル・ハラスメントについて聞いたところ、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」（47.2%）が最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」（20.5%）、「身近に経験した人がある」（4.3%）と続き、「自分が直接経験したことがある」は3.4%となっている。

属性別



- 自分が直接経験したことがある
 - 身近に経験した人がある
 - 経験した人から相談されたことがある
 - 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
 - テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
 - 経験したり、見聞きしたことはない
 - わからない
 - 不明
- “身近な経験がある” (Patterns 1, 2, 3, 4)
- “経験したり見聞きしたことがある” (Patterns 1, 2, 3, 4, 5, 6)

性別

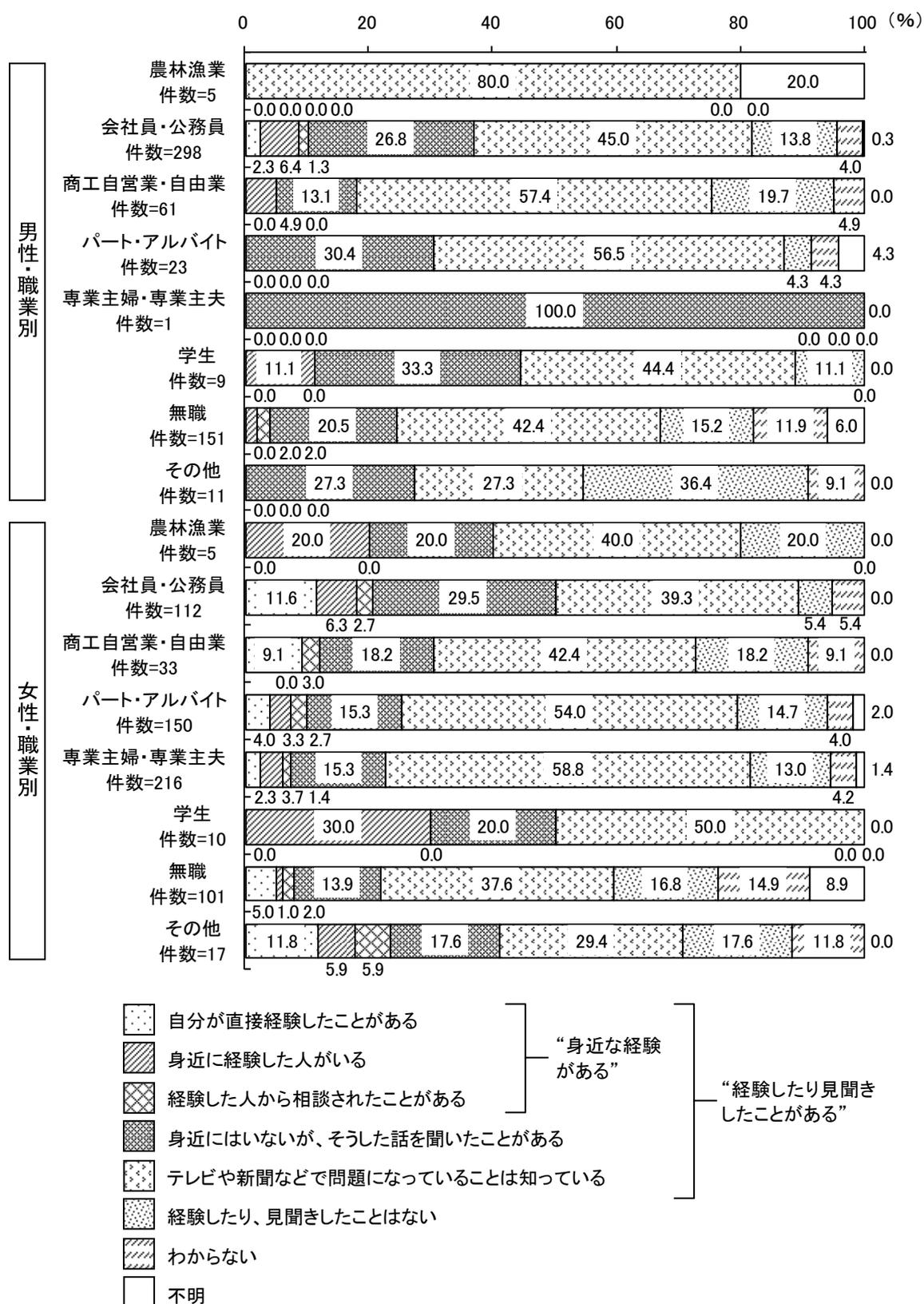
“身近な経験がある”項目への回答は、男性よりも女性が多くなっている。

性別・年代別

他の年代に比べ、女性の30代で「自分が直接経験したことがある」の割合が高く、13.1%となっている。また、「身近に経験した人がある」の割合は女性の20代が15.4%と高くなっている。女性では、年代が下がるほど、“身近な経験がある”項目への回答が多い傾向となっている。

4 男女共同参画について

一方、男性では“身近な経験がある”項目への回答は60代以上で少ないものの年代による大きな差は見られないが、「身近に経験した人がいる」の割合に限ると、60歳未満で高くなっている。

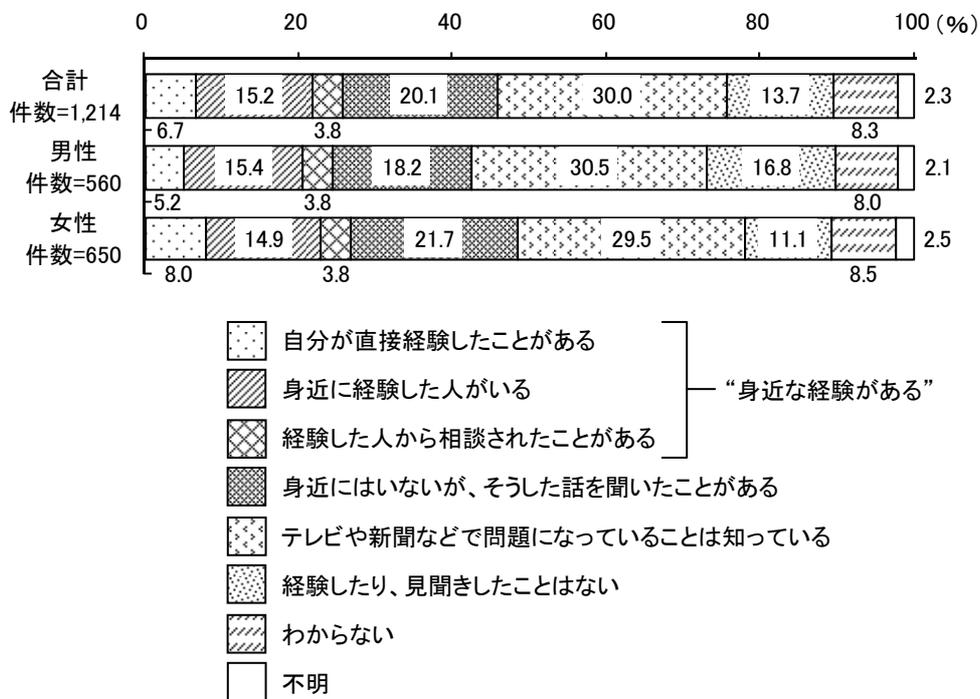


性別・職業別

「自分が直接経験したことがある」は会社員・公務員女性が 11.6%、商工自営業・自由業女性が 9.1%の順で高くなっている。女性では全ての職業で“身近な経験がある”項目への回答があり、学生 30.0%、会社員・公務員 20.6%の順で、男性では学生 11.1%、会社員・公務員 10.0%の順で高くなっている。

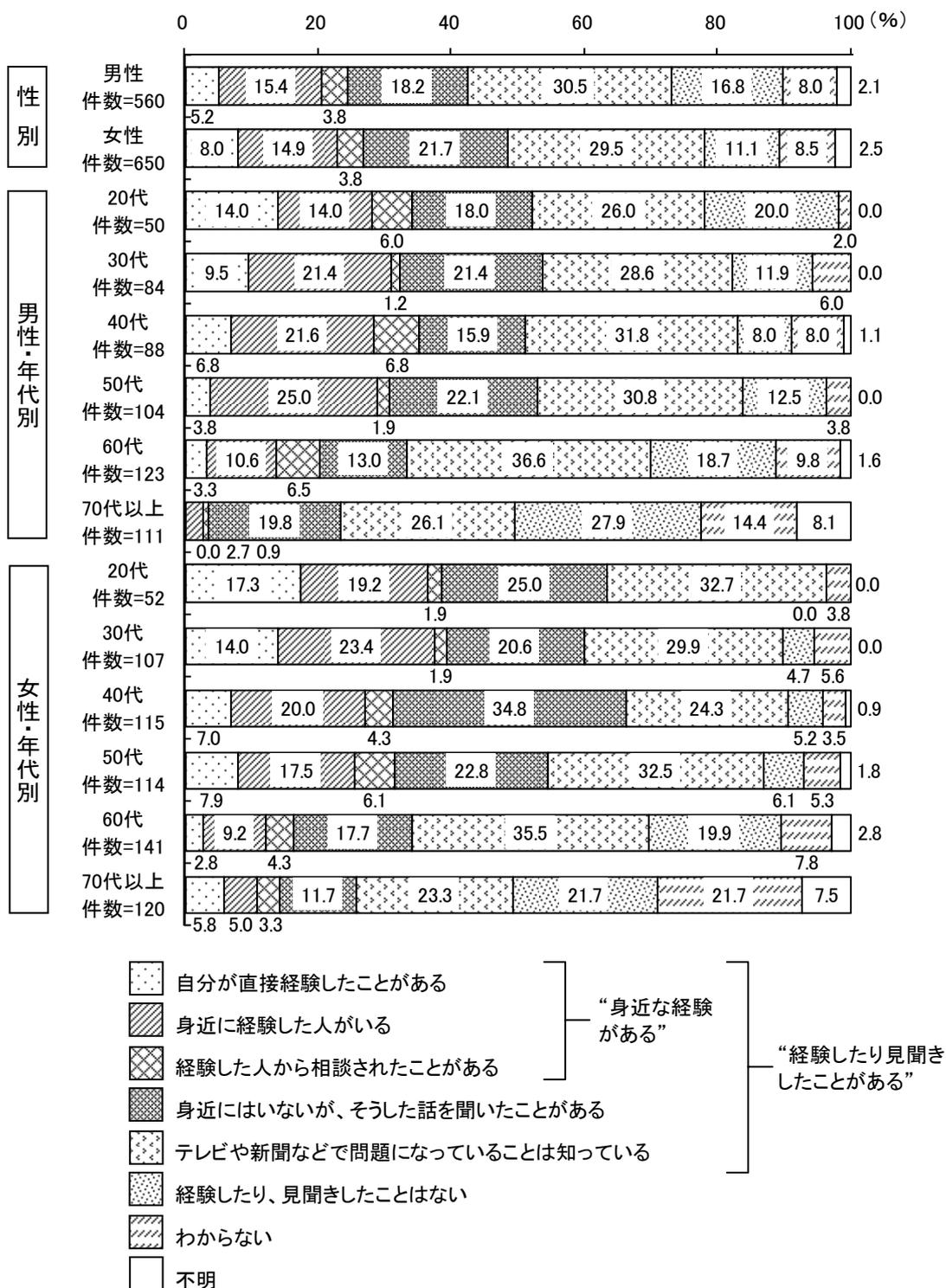
③外的抑圧によるストレス障害（不眠、拒食、出社拒否など）

“身近な経験がある”人は25.7%



外的抑圧によるストレス障害について聞いたところ、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」(30.0%)が最も多く、次いで「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」(20.1%)、「身近に経験した人がある」(15.2%)と続き、「自分が直接経験したことがある」は6.7%となっている。

属性別



性別

“身近な経験がある”項目への回答は、男性よりも女性で多くなっており、60歳未満では、男女とも3割以上が回答している。

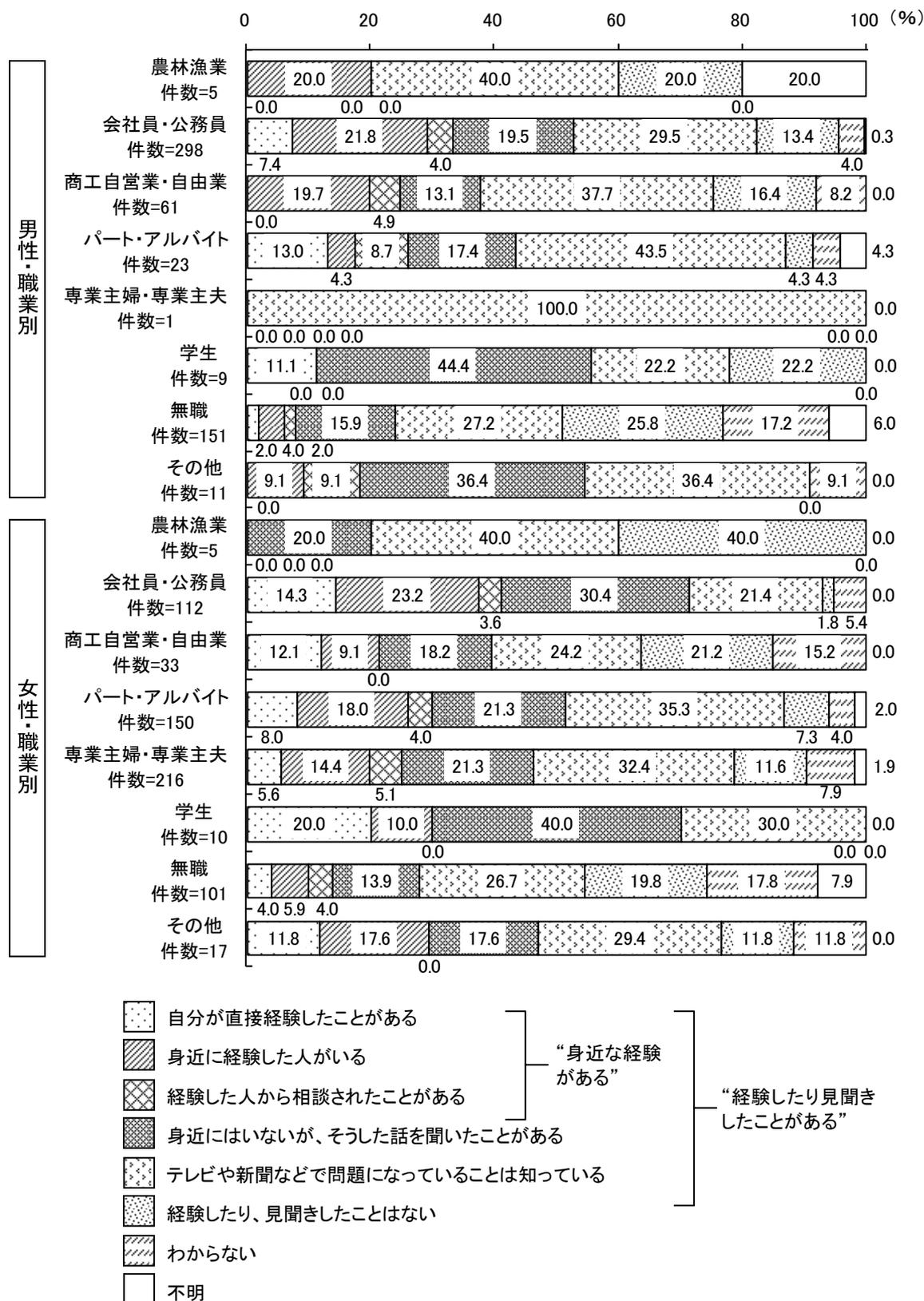
性別・年代別

男性では、60歳未満で“身近な経験がある”項目への回答が多く、その割合もほぼ同じとなっ

4 男女共同参画について

ている。

一方、女性では、“身近な経験がある”項目への回答は20代、30代で多く、年代が上がるほど回答は少ない傾向となっている。



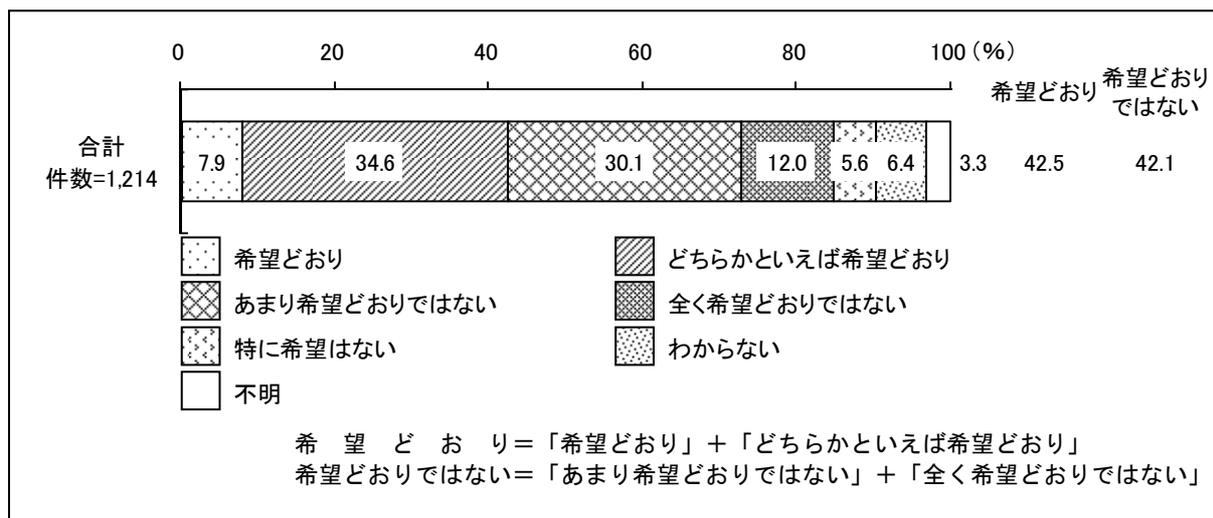
性別・職業別

“身近な経験がある”項目への回答は、男女とも会社員・公務員で最も多く、次いでパート・アルバイトとなっている。

(4) ワーク・ライフ・バランスについて

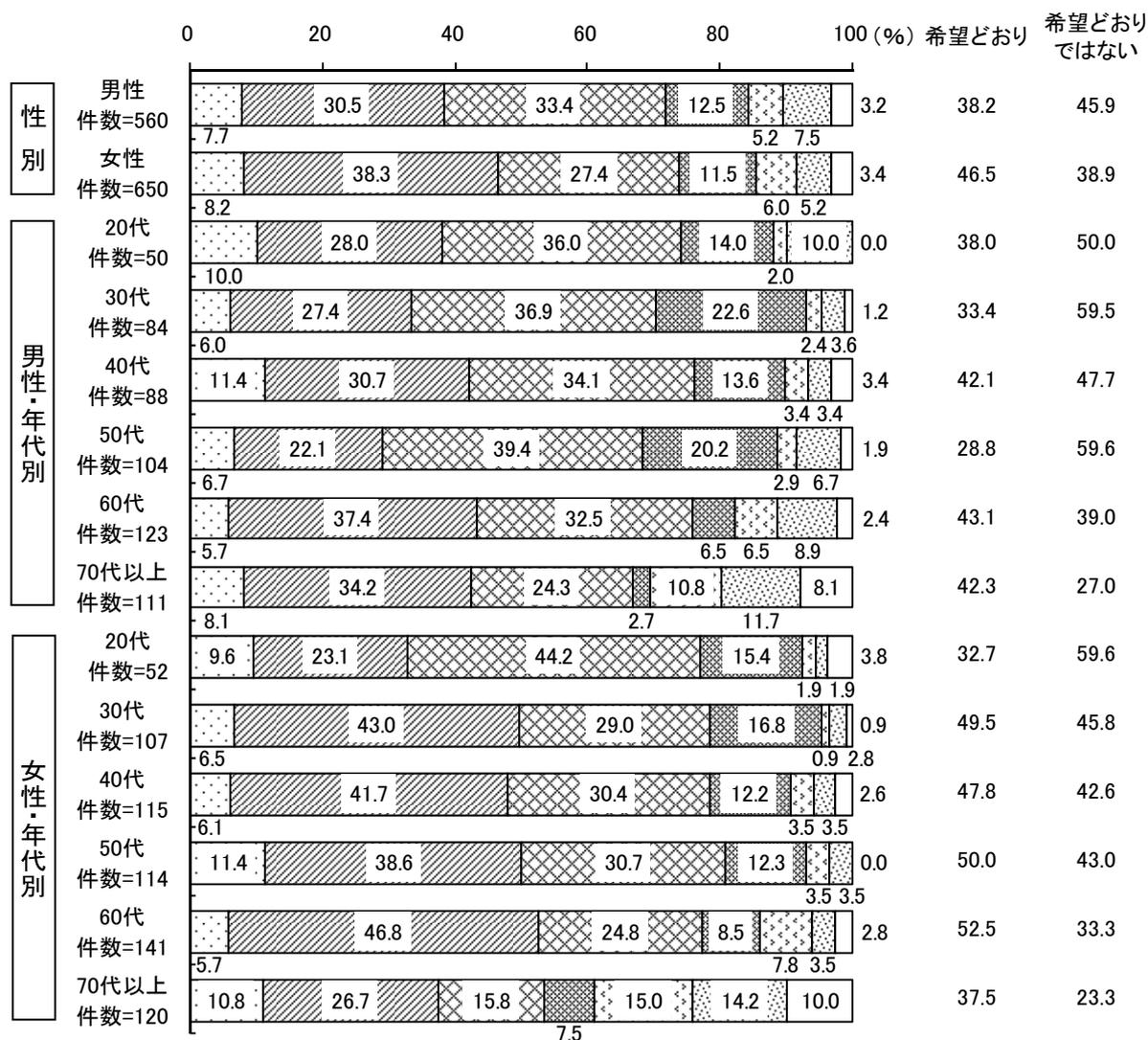
問 13 今、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」という考え方が注目されています。これは、仕事と生活の時間をバランスよく配分し、仕事上の責任を果たしつつも仕事以外の生活（家庭だけでなく、地域活動や個人の趣味なども含まれます）でやりたいことを実現させる、そのようなライフスタイルを築こうという考え方です。あなたの毎日の生活は希望どおりにバランスが取れていますか。 【1つに〇】

“希望どおり” が 45.2%



ワーク・ライフ・バランスについて聞いたところ、「希望どおり」(7.9%)と「どちらかといえば希望どおり」(34.6%)を合わせた“希望どおり”は42.5%、「あまり希望どおりではない」(30.1%)と「全く希望どおりではない」(12.0%)を合わせた“希望どおりではない”は42.1%となっており、ワーク・ライフ・バランスが取れている人と取れていない人が同程度いる結果となった。

属性別



性別

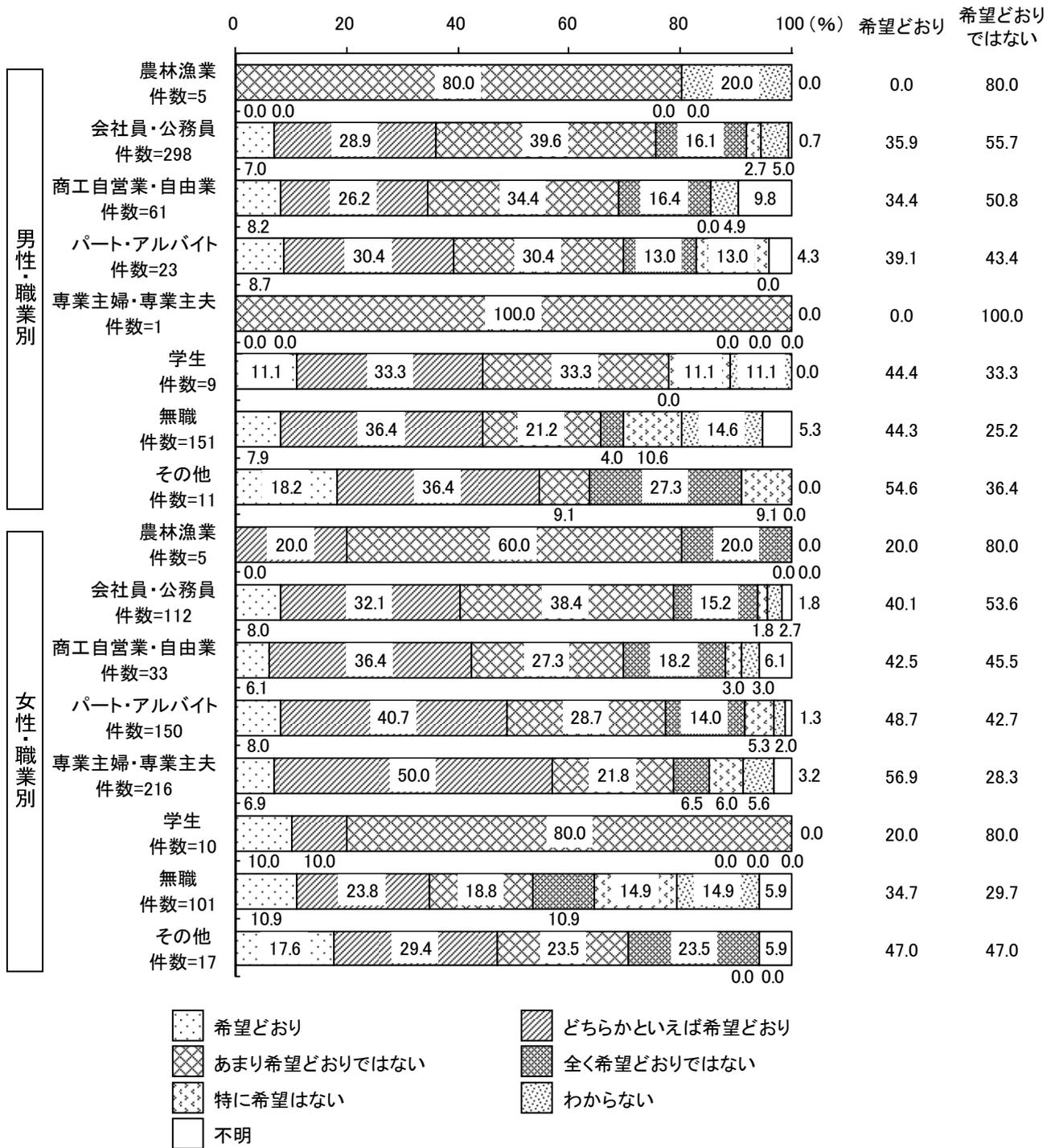
“希望どおり”は女性（46.5%）が男性（38.2%）を上回っている。

性別・年代別

男性では、50代（59.6%）、30代（59.5%）、20代（50.0%）で“希望どおりではない”が半数以上と多く、逆に、“希望どおり”が最も多かったのは、60代（43.1%）である。

女性では、20代（59.6%）で“希望どおりではない”が約6割と多く、それ以外の年代ではいずれも“希望どおり”が“希望どおりではない”を上回っている。

4 男女共同参画について



性別・職業別

男性では、農林漁業、会社員・公務員、商工自営業・自由業、パート・アルバイト及び専業主夫で“希望どおりではない”が“希望どおり”を上回っている。

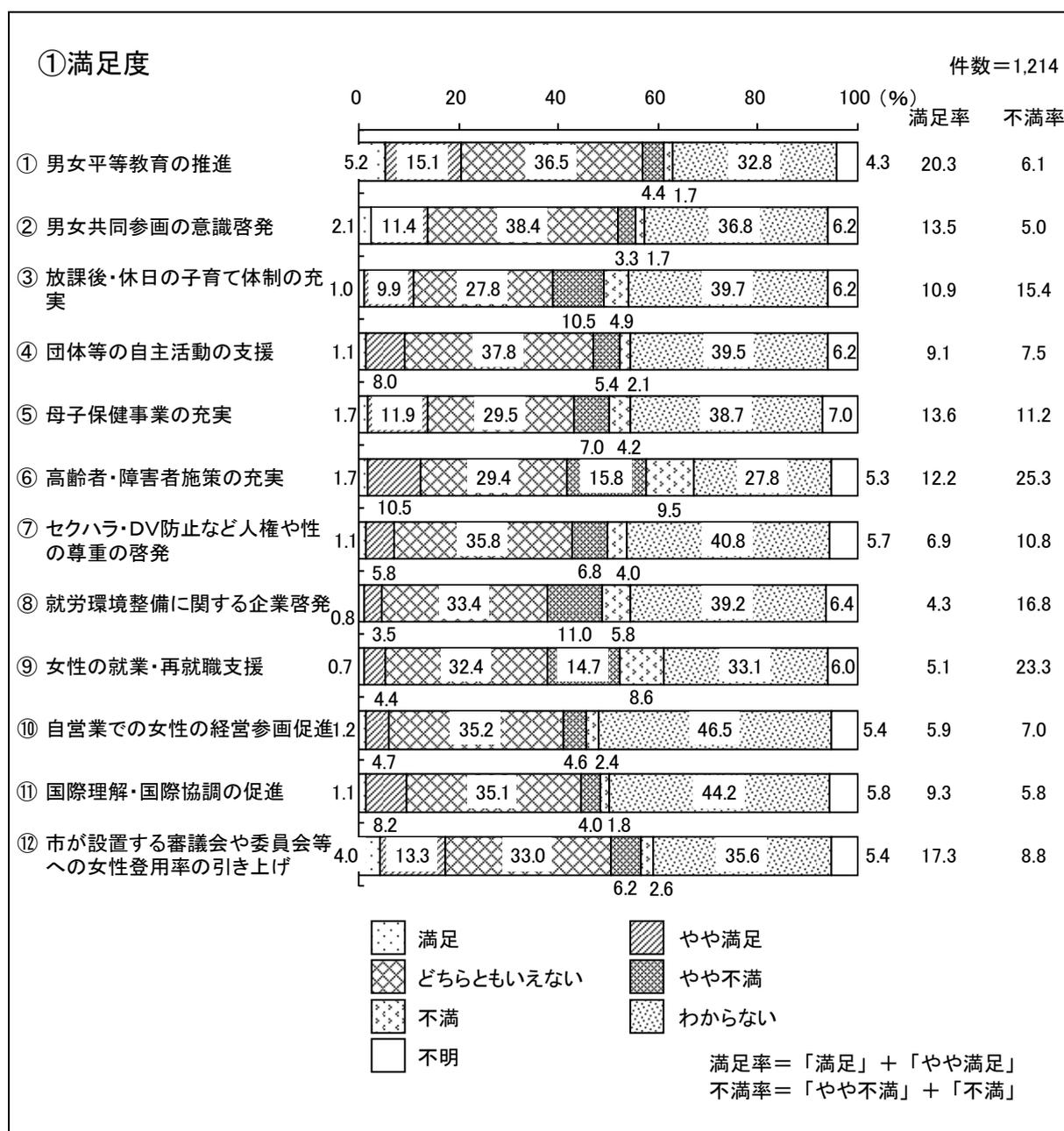
女性では、農林漁業、会社員・公務員、商工自営業・自由業、学生で“希望どおりではない”が“希望どおり”を上回っている。

(5) 男女平等社会の実現のために市が行っている施策に対する満足度・重要度

問 14 男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会を実現していくために、市が行っている施策に対する満足度と重要度についてお答えください。①～⑫の項目ごとに「(1) 満足度」と「(2) 重要度」について該当する番号を選んでください。

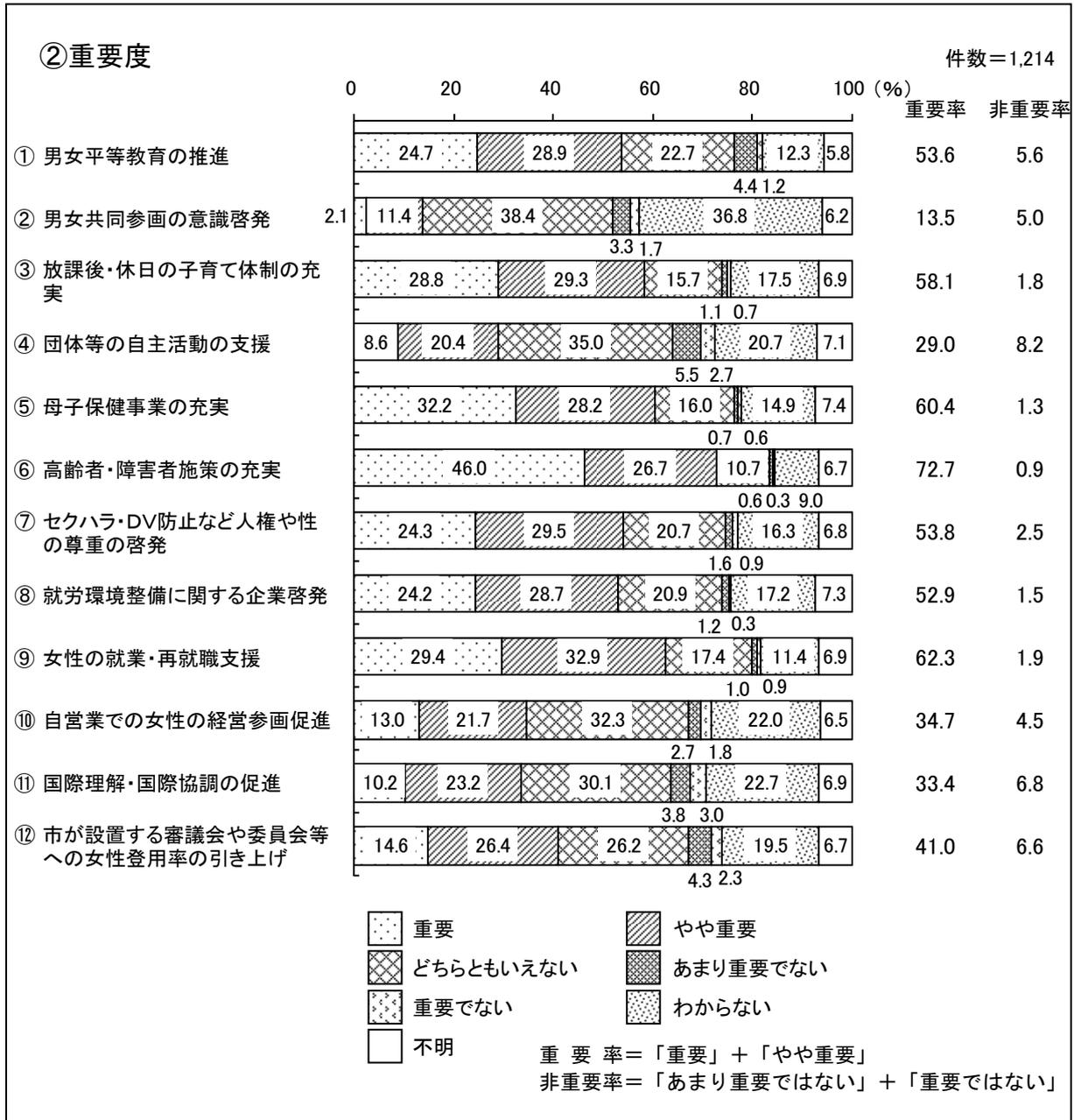
【各1つに○】

男女平等教育推進の施策に満足している人は 20.3%



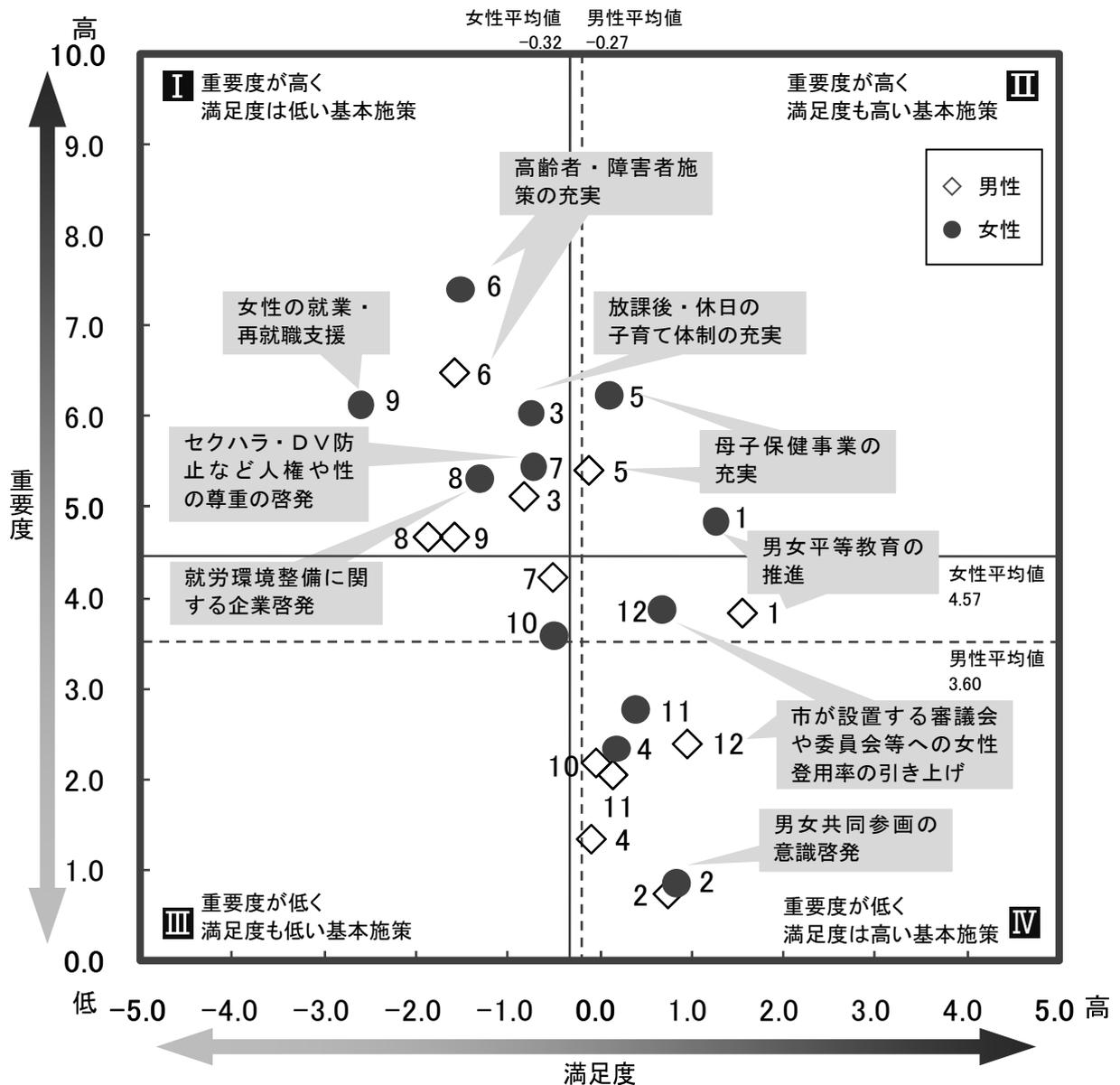
男女共同参画について市が行っている施策の満足度を聞いたところ、“満足率”は「男女平等教育の推進」(20.3%)及び「市が設置する審議会や委員会等への女性登用率の引き上げ」(17.3%)で高く、“不満率”は「高齢者・障害者施策の充実」(25.3%)及び「女性の就業・再就職支援」(23.3%)で高い。

高齢者・障害者施策の充実を重要と考える人が72.7%



男女共同参画について市が行っている施策の重要度を聞いたところ、“重要率”は「高齢者・障害者施策の充実」(72.7%)で最も高く、次いで「女性の就業・再就職支援」(62.3%)、「母子保健事業の充実」(60.4%)とこれらでいずれも6割以上となっている。

③満足度・重要度チャート図



※満足度の算出方法

$$\frac{\text{「満足」回答数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」回答数} \times 5 \text{点} - \text{「やや不満」} \times 5 \text{点} - \text{「不満」} \times 10 \text{点}}{\text{全回答数 (「わからない」「不明」を除く)}}$$

※重要度の算出方法

$$\frac{\text{「重要」回答数} \times 10 \text{点} + \text{「やや重要」回答数} \times 5 \text{点} - \text{「あまり重要でない」} \times 5 \text{点} - \text{「重要でない」} \times 10 \text{点}}{\text{全回答数 (「わからない」「不明」を除く)}}$$

全体的な傾向として、各施策に対して、女性は男性よりも満足度が低く、重要と考える割合は高くなっており、男女間の意識差があるとうかがえる。

「高齢者・障害者施策の充実」は男女ともに期待している施策と考えられ、満足度を高めてい

4 男女共同参画について

くことが求められている。次いで、女性では、「女性の就業・再就職支援」、「放課後・休日の子育て体制の充実」、「セクハラ・DV防止など人権や性の尊重の啓発」、「就労環境整備に関する企業啓発」などが期待される施策となっている。

「母子保健事業」は男女ともに重要と考え、一定水準の満足度もあり、今後も継続して事業を実施していく必要がある。

「男女平等教育の推進」、「市が設置する審議会や委員会等への女性登用率の引き上げ」、「男女共同参画の意識啓発」は男女ともに満足度が高く、市の施策が充実していると考えられる。

男性		女性	
I 重要度は高いが 満足度は低い基本施策			
3	放課後・休日の子育て体制の充実	3	放課後・休日の子育て体制の充実
6	高齢者・障害者施策の充実	6	高齢者・障害者施策の充実
7	セクハラ・DV防止など人権や性の尊重の啓発	7	セクハラ・DV防止など人権や性の尊重の啓発
8	就労環境整備に関する企業啓発	8	就労環境整備に関する企業啓発
9	女性の就業・再就職支援	9	女性の就業・再就職支援
II 重要度が高く 満足度も高い基本施策			
5	母子保健事業の充実	1	男女平等教育の推進
		5	母子保健事業の充実
III 重要度が低く 満足度も低い基本施策			
		10	自営業での女性の経営参画促進
IV 重要度が低く 満足度が高い基本施策			
1	男女平等教育の推進	2	男女共同参画の意識啓発
2	男女共同参画の意識啓発	4	団体等の自主活動の支援
4	団体等の自主活動の支援	11	国際理解・国際協調の促進
10	自営業での女性の経営参画促進	12	市が設置する審議会や委員会等への女性登用率の引き上げ
11	国際理解・国際協調の促進		
12	市が設置する審議会や委員会等への女性登用率の引き上げ		